

# 令和3年度検討会における意見のまとめ

論点・検討項目			R3年度検討会における意見まとめ	今後の検討の方向性
全体			<ul style="list-style-type: none"> <li>公園の立地、種別、規模、性質、背景、使われ方等に応じた整理が必要ではないか。</li> <li>子育て支援と健康づくり・ウェルネスのテーマも検討すべきではないか。</li> <li>社会の変化、変容への対応のあり方が今回の課題への答えの出し方の大きな方向性。骨太なまとめ方を検討すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とりまとめ方の大きな方向性を踏まえつつ、検討項目を再整理</li> <li>公園の特性に応じた分類を行い、分類ごとに現状把握や方向性を検討</li> </ul>
1. 誰もが快適に過ごせる公園管理のあり方	①公園の利用ルールの多様化	公園によって様々な利用者ニーズや周辺住民に対応するため、公園利用ルールの多様化の方向性はどうかあるべきか。	<p><b>①公園利用ルールづくりの方法論</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市公園法に基づく協議会以外にも、利用ルールについて利用者や地域住民と話し合っている様々な会議体を調査してはどうか。</li> <li>公園のルール作りのスキームをつくり、それを指導・サポートする仕組みが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各公園での利用ルールづくりの実態を踏まえ、様々な利用者ニーズや公園の特性に応じて、管理ルールを設定できるような仕組みの充実</li> </ul>
	②公園における安全・安心の確保	犯罪の予防や事故の防止等、公園での安全・安心を確保するため、望ましい管理の方向性はどうかあるべきか。	<p><b>①安全・安心の基準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心の確保のための基準があるとよいのではないか。</li> </ul>	
2. 民が担う公の役割を踏まえた公園運営のあり方	③管理運営の担い手の拡大	民間事業者、自治会等地域住民、ボランティア等が主体となった新しいパークマネジメントの仕組みの方向性はどうかあるべきか。	<p><b>①ボランティア活動の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動の促進には、組織体制、人材育成、保険等をセットにして仕組みを検討すべきではないか。</li> </ul> <p><b>②中間支援組織のあり方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「緑の質の担保」「コミュニティの形成」「経済活性化につなげる」の3本柱をパートナーシップとして形成することが中間支援組織の役割</li> <li>想定されるステークホルダーの範囲設定のパターンや協議事項を整理した上で、制度化について検討が必要ではないか。</li> <li>中間支援組織に対する税制や補助金等の必要性について、検討が必要ではないか。</li> <li>パークコーディネーターを資格ではなく職位として評価することが重要ではないか。</li> </ul> <p><b>③柔軟な管理運営を促す行政の役割分担・判断の考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園管理における行政の多層的な構造を整理・視覚化し、行政間の適切な役割分担、合意形成のあり方を検討すべきではないか。</li> <li>公園運営や許認可の最終的な瑕疵担保責任に対して保険を掛ける仕組みが必要ではないか。</li> </ul> <p><b>④国による柔軟な公園管理運営の普及啓発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園管理者や指定管理者に対する柔軟な公園管理に関する研修等の人材育成、民との連携を進めるための体制構築が重要。</li> <li>大規模自治体を中心に、行政と市民の間を取り持つ中間支援組織の仕組みができるとうい。</li> </ul> <p><b>⑤公園の評価方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園活用への評価として、経済活動に寄与するもの、人の心・体に寄与するもの等、多様な評価軸を整理すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園の規模や立地等の特性を踏まえ、民間事業者、NPO、公園ボランティア、公園利用者等、多様な者の参画による、また、公園を含むまち全体のエリアマネジメントとの連携も意識した、新たなパークマネジメントのあり方を検討</li> <li>その中でも、日本でも大規模な自治体等での導入が想定される、行政と市民・ボランティアの間を取り持ち自律的に管理運営に携わる事業型NPOとしての中間支援組織について、ニューヨークのコンサーバンシーの事例などを参考に、そのあり方を検討</li> <li>中間支援組織以外の形でも、公園でボランティア活動を行う組織や人材をサポートし、公園の管理運営の担い手を確保するための組織体制のあり方を検討</li> <li>中間支援組織や公園ボランティア等による持続的な公園の管理運営を支援する、例えば以下のような仕組みを検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢税制優遇、補助金等による支援</li> <li>➢リスクを補償する公園運営保険制度</li> <li>➢運営に必要な人材育成・人材支援策</li> <li>➢職位としての「パークコーディネーター」の評価制度</li> </ul> </li> <li>新たなパークマネジメントの考え方について、自治体が中間支援組織を導入・活用を推進するために必要となるガイドラインや学びの機会を検討</li> </ul>
	④管理運営のインセンティブのあり方	既存ルールの緩和等、自律的に持続可能な管理運営につなげるためのインセンティブの方向性はどうかあるべきか。	<p><b>①広告等の規制緩和</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広告物の掲示を可能にする仕組みの検討が必要ではないか。</li> <li>公募プロセスを経て時限的に規制緩和を認めるような仕組みを検討すべきではないか。</li> </ul> <p><b>②公園運営に民間資金を充てる仕組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESGのように環境貢献としての公園への関わり方を企業がアピールできる仕組みを検討すべきではないか。</li> <li>米国ニューヨークのBIDやコンサーバンシーを参考にした財源調達仕組みを検討すべきではないか。</li> <li>企業ふるさと納税等により民間資金や寄付金を公園の管理に充てる仕組みを検討すべきではないか。</li> </ul> <p><b>③民間にとっての管理運営インセンティブ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小規模な投資と社会実験によって、地域の合意形成と事業者を発掘する「マイクロP-PFI」のようなスキームがあってもよいのではないか。</li> <li>緑の維持管理を民間が担うインセンティブとして、規制緩和や財源措置の検討が必要。管理運営を担う事業者への占用許可権限の付与や運用の柔軟化を検討してはどうか。</li> <li>民間が管理運営に取り組みやすいよう、自治体側の対応体制として庁内横断組織や窓口の構築等の対応が必要。</li> </ul>	
3. まちの活力を支える発展的な公園利用のあり方	⑤社会実験施設設置にあたってのルール	都市公園に暫定的に設置可能な社会実験施設の具体的な内容や設置のためのルールはどうかあるべきか。	<p><b>①社会実験への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験的取組の促進には、検討から実施までを支援する仕組みの検討が必要ではないか。</li> <li>行為許可事業の公募（事例：横浜市）や行為許可の一括許可の制度を検討してはどうか。</li> </ul> <p><b>②時代に応じた新たな機能整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コワーキングスペース等は明確な位置づけがないと公園管理者によって判断が異なることになるので、公園施設への位置付けが望ましい。</li> <li>公園のオープンスペース性は確保すべきであることから、太陽光発電施設等の再生可能エネルギー施設の公園への設置は慎重な検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな時代に求められる機能を公園の状況やニーズに応じて導入できるよう、公園施設としての位置づけの明確化や設置ルールの整備を検討</li> </ul>
	⑥公園におけるデジタル化の促進	公園においてデジタルが実装された姿やそれを促進するための方法はどうかあるべきか。	<p><b>①公園DXによる効率化・魅力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園の命である緑を最大化するため、デジタルを導入する考え方が重要。</li> <li>維持管理業務への技術導入（画像解析、自動化ロボット）による負担軽減、効率化、コスト抑制を目指すべきではないか。</li> <li>デジタル化の促進には公園管理者に対してデジタル化の効果（管理コストの削減等）を合わせて提示する必要がある。</li> <li>DXによる公園の維持管理の効率化と公園利用サービスの向上、それが行き来するプラットフォームの整備が必要。</li> <li>公園管理アプリは標準化すべき。また、管理者だけでなく利用者も利用できるようにし、利用者からも情報提供するなど、市民参加を促す仕組みが望ましい。</li> </ul> <p><b>②データの整理・蓄積・活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園の維持管理においてもオープンデータ化を進める必要がある。公物、アセットである公園を管理する上で必要となる社会基盤情報、建築物の修繕履歴や植生の情報整理・デジタル化が必要ではないか。他の施設での取り組み状況を参考に検討すべき。</li> <li>利用者データ、管理者データ、天候データ等を組み合わせることで、多くの人が公園の管理に参加できるようになる。</li> </ul>	